



NPO 法人 新エネルギーを すすめる宝塚の会

No.47

2024 年 5 月 7 日
理事長：橋本成隆
〒665-0022
宝塚市野上 1 丁目 1-8
(Tel : 0797-69-8800)
<https://rept.or.jp>

「未来につなげる 食とエネルギー自給の仕組み」

～ 環境配慮型再エネ×脱炭素農業×地域再生 ～
(ソーラーシェアリングの本質的な理念と地域農業振興への可能性)

これまで宝塚市でもソーラーシェアリングが導入されてきましたが、固定価格買取制度（以下、FIT）での売電価格の低下に伴い、2018 年度以降あらたな設置は進んでいません。そのため FIT に頼らない事業モデルによるソーラーシェアリングが求められています。今回講師としてお招きした東さんはソーラーシェアリングの第一人者として多様な売電スキームを手掛け、環境に調和した設備の開発にも取り組んでおられます。これらのソーラーシェアリングについて一緒に学びましょう。

講師：東 光弘 さん
(ひがし みつひろ)

株式会社 TERRA 代表取締役
株式会社ソーラーシェアリング総合研究所 代表取締役
市民エネルギーちば株式会社 代表取締役



と き：2024 年 5 月 25 日（土） 10:20 ～12:00
(開場) オンライン、現地参加共に 10:15～ 開場
と ころ：宝塚市立男女共同参画センター学習交流室 3, 4
& Zoom オンライン (ソリオ 2 4 階)

参加費：無料

申込方法：事前予約制（現地当日 30 名まで参加可能）

- 新エネルギーをすすめる宝塚の会ホームページにある「お知らせ」から申込みをお願いいたします。(<https://rept.or.jp/>)
- 現地参加の場合はメール (info@rept.or.jp あて) で、件名に勉強会 現地参加希望、本文に氏名を記入し申込み可能
- オンライン Zoom 参加の場合は上記申し込みページから申込みください。入力頂いたメールアドレスに Zoom 情報を返信いたします。



「第 13 回通常総会」を上記勉強会の前に行います。
(2024 年 5 月 25 日（土）9:20 ～ 10:10)
議案書と出欠表を同封しております。正会員の方は是非ご出席ください！

冒頭で紹介している講師の東さんは、1990 年から太陽光パネルを有機野菜とともに販売され、2011 年の震災に伴う福島での原子力発電所事故を契機にソーラーシェアリングに取組まれました。現在では千葉県匝瑳市で 20 ha の農地でソーラーシェアリングを運営されています。しかも RE100 を進める企業に「選ばれる再エネ」を提供する FIT に頼らない事業モデルも。またその事業コンセプトがスマートで「人の笑顔が溢れる再エネ」をビジョンに掲げ、「生態系との調和」「地域社会との調和」「一般化および発展、応用」の 3 つがテーマとのこと。「ソーラーシェアリングの下に届く太陽光を木漏れ日に近づけていきたい」という考えのもと、ペロブスカイト太陽電池を利用した太陽光パネルや周辺環境になじむ架台の開発にも取り組まれています。

再エネも【環境格付】フェーズに

- ①山を壊していないか/観光資源喪失
- ②自然生態系への配慮は？
- ③地域に資金還流しているか？
- ④災害リスクは？
- ⑤住民理解/住民感情は？

選ばれる再エネへ

一緒に学び笑顔溢れる未来を思い描きましょう！皆様のご参加お待ちしております。（橋本成隆）



◆勉強会「環境にやさしいまちづくりを目指す身近な薪炭林を活用した脱炭素」のご報告◆

2024 年 1 月 20 日に株式会社篠田主任の柳樂さんを講師に木質バイオマスエネルギー利用の勉強会を開催。参加者は 18 名（オンライン 9 名、現地 9 名）。冒頭で、一般家庭のエネルギーの 55% は暖房や給湯の熱利用。その熱をエアコンなどの電気で作っていませんか？電気を作るのにエネルギー資源を熱に変え、発電し、その電気をまた熱に変える、無駄ですよね？との問いかけ。宝塚市の西谷地区に放置された薪炭林があるのであれば、カーボンニュートラルな木質バイオマスを燃料にして暖房や給湯に利用してはどうかと。脱炭素化や地方再生が求められる今、放置された薪炭林整備の新たな形として獣害対策・生物多様性・里山景観・観光資源の回復など地域の産業基盤を再構築するだけでなく、地域の脱炭素化・資源・経済循環の同時実現を図り、兵庫県・関西圏での脱炭素型の新たな産業・社会モデルの先行事例となる。とのご説明でした。ただ、熱の需要量と木質バイオマスの供給量のバランスを見極めることが大切で、供給量の確保が見通せないまま設備導入が先行した失敗事例の紹介も。また、欧州では木質バイオマスの利用が進んでいるのは国を挙げての支援策の違いとのこと。日本での木質バイオマス利用は欧州に比べると遅れてはいるものの、薪炭林を活用した木質バイオマスのエネルギー利用は十分可能でありその意義深さを再認識した次第です。ぜひ宝塚市でも進めたいと思いを新たにしました。（橋本成隆）



◆「エビデンス・ベースド・アドボカシーの紹介」◆

この度運営委員に加わらせて頂きました、吉田美樹と申します。どうぞ宜しくお願い致します。友人たちが関わっていたこともあり、REPT の存在は随分前から存じていたものの、子どもたちが小さなうちはなかなか参加できず、今ようやく携われるようになりとても嬉しく思っています。

小さな頃から世界の問題に悲しみを感じており、小学生の時に見たエチオピア飢饉への募金ポスターが忘れられず、仕事としてはまず開発コンサルタント会社や NGO に所属し、国際協力を行って来ました。こちらの写真は JICA の植林と村落開発を合わせた案件でセネガルに滞在していた時のものです。（約 20 年前の写真なので、今はここからプラス 20 年した顔



をしています（笑）。） 環境問題にも常に関心があり、高校生の頃「エコロジーチーム」と名付けたグループを作ったり、「地球を救え」という分厚い百科事典のような本を親に買ってもらい非常に嬉しかった覚えがあります。とは言え実際に何かインパクトがある行動を起こせていた訳ではないので、これから REPT の一員として、持続する社会そして地球に貢献できれば幸いです。

REPT の活動はどれにも興味がありますが、私が最も貢献できるのは、勤める会社（株式会社オシントック）およびそこが運営するソーシャルシンクタンク（探究インテリジェンスセンター）を拠点に私が推し進めている「エビデンス・ベースド・アドボカシー」の手法を取り入れた、一連の再エネ推進アドボカシー活動かなと思っています。こちらの手法については、上記探究インテリジェンスセンターのホームページにレポートを掲載していますので、宜しければご覧になってみて下さい。昨年 REPT 主催の「ファクトフルネス講座」でお話下さった安田陽先生に巻頭言を頂いているので、是非そちらだけでも！ご感想やご意見、お待ちしております。

さてアドボカシー活動とはなんぞやと言いますと、「政策提言・啓蒙」という言葉や、「擁護・代弁」という言葉に置き換えられる活動です。今回私が REPT で展開したいと考えているのは、はじめの「政策提言・啓蒙」活動であり、これは「変えるべき地球や社会の状態に影響を及ぼす人間の行動や、それを決定づける目に見えるルールや見えないルール(世論や倫理)の変化を目的とする活動」と説明されます。私がアドボカシーに関わり始めたのは 2007 年の横浜での TICAD（アフリカ開発会議）や 2008 年の洞爺湖でのサミットに向けた活動でした。アフリカの人々についての決定がなされるはずが、その当事者の声は全く反映されていない現実があるため、その声を政策決定の場に届けようというものでした。昨年は広島でのサミットに向けた、日本の市民社会が連携した活動にも加わり、引き続きそのネットワークにも関わり続ける所存です。

このような活動の中で感じるのは、声をあげてはいるものの、実際政策にどの程度それが反映されているのかという一種の虚しさです。声をあげられる環境やあげる行為自体が、民主主義の面から非常に重要ではありますが、活動の目的から考えると、実際に政策に反映されていなければ達成とならないのです。その達成に少しでも近づけるのが、この「エビデンス・ベースド・アドボカシー」という手法、研究・政策・活動グループ・実務家など、異なるセクターからの独立したデータを統合分析し、得られた情報によりアドボカシーを行うプロセスです。こちらにそのプロセス例や活動の極意を記しましたので、ご覧になってみて下さい。

エビデンス・ベースド・アドボカシーのプロセス例

1. 取組む課題、根本原因を特定し、そのエビデンスを準備する
2. アドボカシーのアウトプットと目標を確立する
3. 課題に関する決定権を持っている人、またはその人に影響を与えられる人を特定する
4. 対立、妨害する人を特定する
5. 自分たちのアドボカシー活動の強み、限界、連携を認識する
6. 最適なアプローチ、活動、戦略を見極める
7. アドボカシーメッセージを作成する
8. 自分たちのアドボカシー活動の何が成功し失敗したか振り返り、それに合わせた活動に修正する

エビデンス・ベースド・アドボカシーのプロセス極意

1. 政府が問題解決の対象とする「アジェンダ」設定の段階に注力し、政策立案者からパートナーと認識されるようにする
2. エビデンスを参加型でつくりあげる
3. 政策決定者が初期段階からプロセスに関わる
4. 設定するアウトプットは、直接的に達成できるものにする
5. 自分たちのアドボカシー活動の強み、限界、連携を認識する
6. 内部の弱みは、他との連携で補う
7. 政策決定者には建設的なアイデアを
8. 一般の人々には感情に訴えかけた、肯定的で、行動変容は直接的には求めないが視野を広げさせる、人々個人に関連させるストーリーを

なかなか興味深いと思いませんか（笑）！？海外では主流になってきているこの手法ですが、日本でこの言葉を使用したのは私が記したレポートが初めてです。この手法を取り入れた実りある REPT の政策提言・啓蒙活動に、そして勿論その他活動にも携わらせて頂きたい、これからどうぞ宜しくお願い致します。（吉田美樹）

（探究インテリジェンスセンターホームページのレポート URL）

https://www.tankyu-intelligence.org/post/report_evidence-based-advocacy



◆新しく加わった運営委員のメンバーを紹介します！◆

嬉しいニュースです。前項で「エビデンス・ベースド・アドボカシー」を紹介して下さった吉田美樹さんに加え、三谷友里さん、田中斉治さんのお二人も新しく運営委員として運営会議にも参加し活動して頂いています。それぞれに自己紹介して頂きます。まずは三谷さん、続いて田中さんです。

＜三谷友里さんの自己紹介＞

大学生の時に地域活性化を目的とした NPO 法人を地元島根県で設立し活動を続けていた経験があったことから、またいつか類似の活動を再開したいと思っていました。

会社員の傍ら、宝塚市内でボランティア活動に取り組んでいた中で今回ご縁があり、本 NPO に所属させていただける運びとなったことを本当に嬉しく思っています。

再生可能エネルギーの普及活動の中から副次的に見えてくる地域の課題に対して、解決していける力になればと思っています。至らない点が多々あるかと思いますが、これからよろしくお願いいたします。（三谷友里）



＜田中斉治さんの自己紹介＞

学生の頃から環境問題、特にエネルギー問題には関心があり、脱炭素を目的とした再生可能エネルギーの普及のために自分に何かできることはないか考えてきました。そして、この度、50代も半ばに差し掛かり人生の振り返りを意識する中で、これからのライフワークとして環境問題に取り組んでいる NPO で活動したいという思いが強くなりました。

REPT の活動はネット上で知って、再生可能エネルギーの啓蒙活動を市民発電という見える形で10年以上も実践しているという点で貴重な場であると感じました。エネルギー問題で私たちが出来ることは、まずは省エネということになると思いますが、REPT の活動のように自らが発電できることを示して、その取り組みの輪を広げていき、社会の空気を少しずつでも変えていこうとすることも、同時に大事な視点であると思います。この REPT の活動の継続と拡大のための一助となれば考え、今回、一緒に活動させていただくことになりました。このような活動での経験は全くなく一から勉強となりますが、長年、関わってきた広告



業界で得たノウハウなども活かしながら REPT の活動に少しでも貢献していければと考えています。
どうぞよろしくお願い致します。(田中斉治)



◆2024 年度ソーラーシェアリング市民農園ことはじめ◆

今年も始まりました！ソーラーシェアリング市民農園での共同プログラム。これは、宝塚すみれ発電とコープこうべ、近畿大学藤田ゼミ、龍谷大学竹歳ゼミによる「さつまいも作り」です。

藤田ゼミでは昨年まで自由参加だったのが今回から「参加は必須」になったため、学生（3年生）が18名やってきました。竹歳ゼミはこの日の日程が合わず、次回からの参加となりますがこちらも学生は10名参加となり、市民農園に若い声がこだまする状況が生まれています。

今回の作業は畝立て（基礎はできているので成形のみ）とマルチシート張り。組合員活動に参加しているご家族（こどもは0歳児～小学校5年生）連れも学生も、今年異動でコープこうべ第1地区本部にやって来たマネジャーも初めての作業です。さほど難しい作業ではありませんが、「ピンと張らなかったら風に吹き飛ばされるし、隙間があったら草抜きが大変だよ！」という声に押されてみんな真剣です。それでも数は力なり！あっという間に作業終了です。

少し早めに昼食時間を設定し、午後の学習会に備えますが、学生のみならず遊びたいこどもたちが食事の時間もそこに「外で遊ぼう！」と手を引いて飛び出して行きました。こんな機会めったにないですよ。

毎年こうやって学生と組合員さん家族が仲良くなっていく様を見るのは本当にほほえましいです。

さて、午後は学習会。毎年始まりの時は宝塚すみれ発電からソーラーシェアリング市民農園の意義についてお話しさせていただいています。同じ話を毎回聞かされる人には気の毒かもしれませんが、農業を助けるための再エネ導入であることを理解してもらうこと、それが一番重要なのです。昨年は「再生可能エネルギーは手段の一つであること」を強調するようにしています。再エネありきなのではなく、農業の分野においては再エネを使って何を実現したいか、それを考えなくては本末転倒であるからです。北摂里山地域循環共生圏という取り組みの中でも、ソ



ーラーシェアリング市民農園の位置づけはエネルギー部門だけではないと示されており、人的交流やさまざまな価値を生むものとされています。

当日コープこうべさんが取られたアンケートには、初めての作業で緊張したことや、いろんな人と力を合わせてひとつのことをする楽しみなど、うれしい意見が学生や組合員さんからたくさん寄せられました。始まったばかりのさつまいも作りですが、最後の収穫が楽しみ！と書いてくれている学生もいて、今年は若い力が特に輝く畑になるのではないかと今から期待に胸が膨らみます。ソーラーシェアリング市民農園の次の作業は5月11日の苗植え付けです。

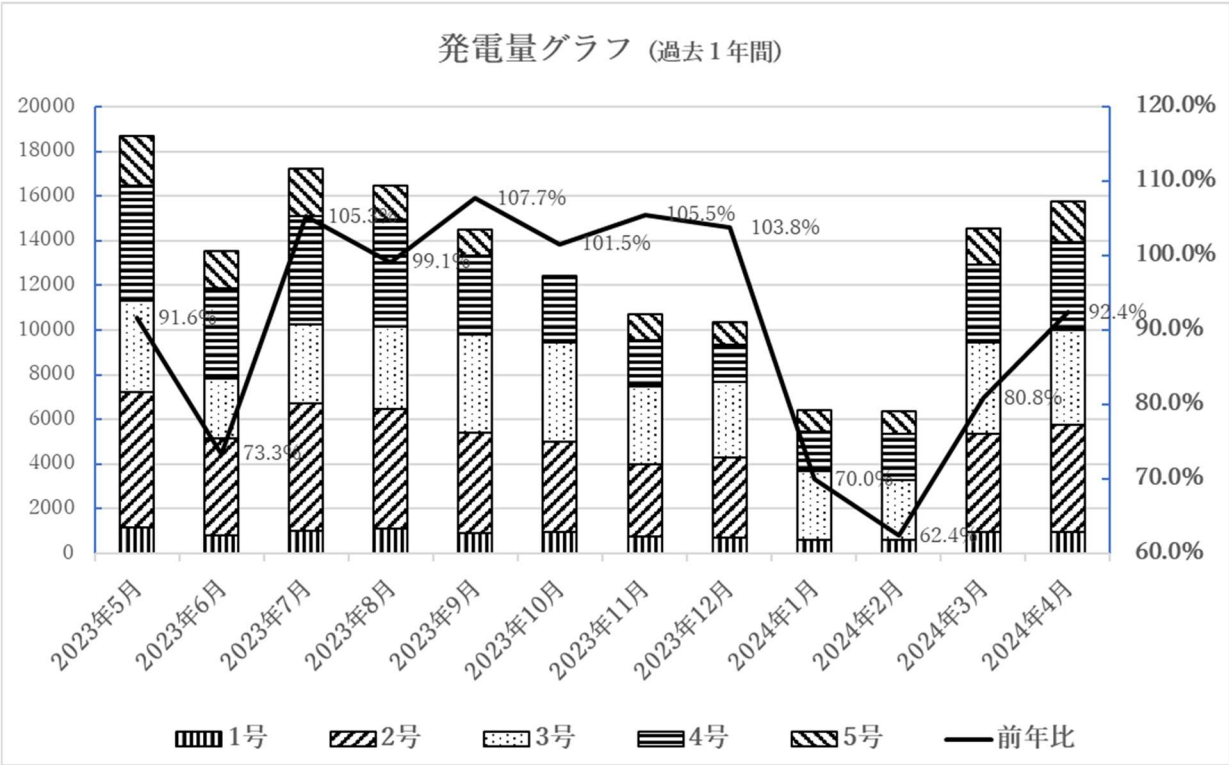


ご興味がある方はどうぞ市民農園の様子を見においでください。ワイワイ楽しくさつまいも作りをしています。(宝塚すみれ発電 井上保子)



◆ 発電グラフ（2024年4月30日時点） ◆

前号ニュース記載の通り3号機のパワーコンディショナー故障のため一時的に発電量が低下していましたが現在は復旧し正常に稼働しています。また2024年1～2月の発電量が落ちている様に見えるのは一時的にデータ取得ができなかったためです。他の号機は順調に発電しています。



最新の詳しい発電情報は、宝塚すみれ発電のホームページ (<https://sumire.bona.jp/>) か、左記 QR コードにアクセス頂き、上部メニューの「発電所情報」からご確認いただけます。

(井上 正弘)



●お願い 新たな会員と寄付を募っています

皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。
私たちの活動を継続するには皆様の会費と貴重な寄付が不可欠です。寄付は少額でも構いませんので、どうか私たちの活動にご理解とご支援をいただければ幸いです。
石油や天然ガスなどの輸入資源や、高度な技術が必要でひとたび事故が起きると取り返しのつかない被害が発生する原子力発電には頼らない、安心して暮らせる再生可能エネルギー100%のまちづくりが私たちの目指すところです。
ご賛同いただけるようでしたら、右の振込先にお振込みをお願いいたします。会員の条件等につきましてはホームページ (<https://rept.or.jp/>) を参照願います。

＜振込先情報＞
● ゆうちょ銀行からお振込みの場合
口座名：(トクビ) シンエネルギー・アスメルタカラツ・カノカイ
記号：00940、番号：328299
● ゆうちょ銀行以外からお振込みの場合
振込先金融機関名：ゆうちょ銀行
支店名：〇九九店
口座科目：当座、口座番号：0328299
口座名：(トクビ) シンエネルギー・アスメルタカラツ・カノカイ
お振込み頂いた際には下記に連絡をお願いします。
＜メールアドレス＞ info@rept.or.jp